

## 観 察

この頃小さい子供にもわかるように、繪ばなしで、いゝ木が出来てゐる。偉人物語のような話は、その人の偉さをならべたてゝもまだ感銘がうすいから、繪本によるのがいい。

### 第五週

雪(年長組第一週参照)

豆撒き

年中行事の観察は一般の自然観察よりも一そう生活的であり、郷土色を充分盛る事が出来、さながらの中に観察させ易いものであらう。豆撒きといふ社會観察では一つは豆を撒かせること、もう一つは豆撒きについての事物を注意することの二つである。代りがはるに豆を撒かせること(誘導保育参照)そしてお豆撒きがすんだらみんな集つて豆撒きについて話し乍ら今まいたお豆は斯ういふのだと注意してみせる。そしてお三寶、その他のものを行事について話し乍ら注意する。年の数だけお豆をたべるのを、何か子ぎも

い。一緒に讀んできかせる。そしてかういふ種類のは、幾日かくり返すのがいゝと思ふ。童話ならそうしないでもいいが、かういふ話はくり返しを必要とする。

與へていゝものがあつたら代りに與へ、數について具體的經驗をさせるのも年少組ならばよいであらう。又生のお豆を水に二三日つけて置き、芽の出るのをみせれば自然観察になつてくる。

### 第六週

常盤木の葉

多くの木の葉がない時、今も綠色してゐる木、雪が降つても枯れない葉を、少し暖い日、子ぎも達も外遊びの機會にみつけて注意する。これは、若し押し葉で去年の落葉樹の葉があつたなら、葉の性状について比較させてみるよよい。手近な、松ミか樺ミかの葉である。そして比較したあとで何故丈夫なのかを子ぎも達にわかり易く話してやる。

木の幹

木の葉をみるに一しよに木の幹に注意する。外からみた

所が櫻、椿、松等各々がふここ、ごんな風にちがふかを注意し、外皮のすぐ下が生きてゐて養分や水が通る事を、生けた花の枝なぎの實物で緑色の部分をみせて話す。この様な材料はいかにも理科的であるから教へすぎない様に、唯

物をぼんやりみない習慣をつけるこいふ様にしなければならぬ。子ぎもの驚異にみちた心の芽を正しく伸してやる爲に大人がまめに心こからだを働かさなければならぬ。

梅の花

花の少い此頃に咲く強い花であることを話し乍らその香をかゞせる。そしてみんなの知つてゐる花で何の花によく似てゐるかをきいてみる。

### 第九週

手 技

菜の花

東京邊では土にぢかに咲く菜の花はまだない。けれど桃の花にそへて雛段を飾り度い花であるから桃の花に一しよに觀察させよう。これは草の花である事なき注意してまごがらがふか比較させ乍ら。

### 第十週

芝の芽

芝のやゝ緑にならうとする氣配に近よつてよくみる。もう下に立派に芽が出てゐる。芝の芽だけでなしに一つ一つ木や草の芽に注意してみさせ度いこのごろ、子ぎも達も、春の近づいて來てゐることをそれなき喜びに感ずるのではないだらうか。

### 第五週

自由畫 二回

自由に二回かゞせる

ぬりゑ 一回